



<定点把握感染症>

疾患名	全国		山形県				山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積(県) 第1~36週
	第35週	第36週	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減	第35週	第36週	増減		
インフルエンザ定点(定点医療機関数)			(43)				(9)			(10)			(4)			(8)			(12)			
インフルエンザ	140 0.03																					5
小児科定点(定点医療機関数)			(28)				(6)			(7)			(3)			(5)			(7)			
RSウイルス感染症	4518 1.44	30 1.03	49 1.75	▲	3 0.50	2 0.33	▽	3 0.43	10 1.43	▲	8 2.67	△	15 2.50	22 4.40	▲	9 1.29	7 1.00	▼				212
咽頭結膜熱	218 0.07	1 0.03	2 0.07	△					1 0.14	△			1 0.17		▼		1 0.14	△				380
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	871 0.28	5 0.17	2 0.07	▽				4 0.57	1 0.14	▽			1 0.17	1 0.20	△							399
感染性胃腸炎	6603 2.10	45 1.55	37 1.32	▼	12 2.00	7 1.17	▽	9 1.29	13 1.86	△	1 0.33	2 0.67	△	20 3.33	11 2.20	▽	3 0.43	4 0.57	△			5712
水痘	168 0.05	2 0.07	1 0.04	▽		1 0.17	△										2 0.29					83
手足口病	11733 3.74	508 ◎17.52	500 ◎17.86	▲	90 ◎15.00	131 ◎21.83	▲	111 ◎15.86	100 ◎14.29	▽	25 ◎8.33	42 ◎14.00	▲	208 ◎34.67	175 ◎35.00	▲	74 ◎10.57	52 ◎7.43	▼			1787
伝染性紅斑	47 0.01																					7
突発性発しん	839 0.27	15 0.52	8 0.29	▽		1 0.17	△	1 0.14		▽	4 1.33		▽	8 1.33	4 0.80	▽	2 0.29	3 0.43	▲			411
ヘルパンギーナ	2782 0.89	265 ◎9.14	229 ◎8.18	▽	40 ◎6.67	49 ◎8.17	▲	30 4.29	15 2.14	▽	4 1.33	12 4.00	▲	97 ◎16.17	87 ◎17.40	▲	94 ◎13.43	66 ◎9.43	▽			919
流行性耳下腺炎	96 0.03	2 0.07		▽							2 0.67		▽									22
眼科定点(定点医療機関数)			(8)				(1)			(3)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	2 0.00																					0
流行性角結膜炎	151 0.22																					61
基幹定点(定点医療機関数)			(10)				(2)			(2)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3 0.01																					1
クラミジア肺炎																						0
マイコプラズマ肺炎	4 0.01																					2
細菌性髄膜炎	8 0.02																					1
無菌性髄膜炎	6 0.01																					0

◎ : 警報レベル ○ : 注意報レベル

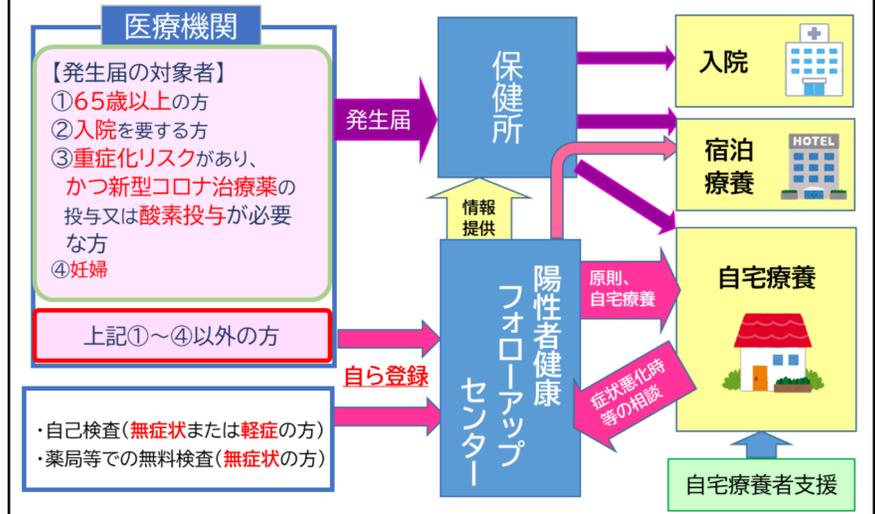
<全数把握感染症>

疾患名	報告数					備考
	山形市	村山	最上	置賜	庄内	
腸管出血性大腸菌感染症				1	1	型別:O26 VT1VT2 (1)、O26 VT1 (1)
レジオネラ症					1	
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1				1	※内、第35週追加報告(1) 90日以内の海外渡航歴:無し(2)
梅毒	1					※第34週追加報告分

<通信欄>

※新型コロナウイルス感染症発生届の限定について(9月14日から適用)

感染が拡大している一方で、軽症者がほとんどを占めている中、医療を重症化リスクのある方に重点化し、外来診療・保健所業務のひっ迫回避と、県民の命と健康を守る仕組みの両立を図るため、下図の通り変更となります。



※ 詳しい内容については、[新型コロナウイルス感染症に関連するポータルサイト\(県庁HP\)](#)をご覧ください。

※ 定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。
 ※ ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。

※ 表中の数値 上段: 報告数 下段: 定点当たり報告数
 ※ 定点当たり報告数が、▲: 2週連続増加、△: 今週増加、▼: 2週連続減少、▽: 今週減少

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	合計
インフルエンザ	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									0
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	6	5	7	15	10	2	3	1							49
咽頭結膜熱			1				1								2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				1		1									2
感染性胃腸炎		2	5	7	8	2		2	1	3	3	3	1		37
水痘											1				1
手足口病	4	49	180	150	74	17	11	4	1	4	1	4		1	500
伝染性紅斑															0
突発性発しん		5	3												8
ヘルパンギーナ		9	60	76	51	15	5	6	1	2	1	2		1	229
流行性耳下腺炎															0

< 令和4年7月月報 >

2022年8月24日 発行

疾患名	山形県		山形市		村山		最上		置賜		庄内		山形市	累積(県)
	6月	7月												
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(3)		(1)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	15	18	4	5		1	4	3	3	4	4	5	101
	定点当り	1.50	1.80	1.33	1.67		1.00	4.00	3.00	1.50	2.00	1.33	1.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	12	7	6				2	1	2	5	2	1	34
	定点当り	1.20	0.70	2.00				2.00	1.00	1.00	2.50	0.67	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	3				1				1		1		12
	定点当り	0.30				1.00				0.50		0.33		
淋菌感染症	報告数	2	5		1						2	2	2	17
	定点当り	0.20	0.50		0.33						1.00	0.67	0.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(2)		(2)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	3	3					1	1			2	2	22
	定点当り	0.30	0.30					1.00	0.50			0.67	0.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	9	7			2	1	3				4	6	83
	定点当り	0.90	0.70			1.00	0.50	3.00				1.33	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数													0
	定点当り													

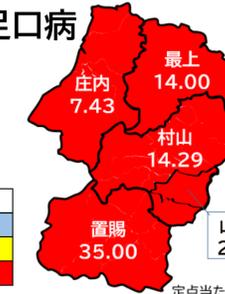
< トピックス >

手足口病・ヘルパンギーナが流行中!!

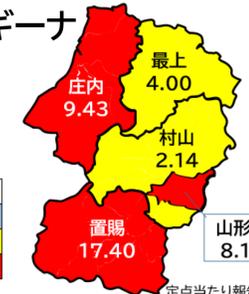
手足口病とヘルパンギーナの流行が続いており、第36週の県平均定点当たり報告数は、手足口病、ヘルパンギーナともに警報レベルとなっています。

< 県内流行MAP >

手足口病



ヘルパンギーナ



< ウイルス分離・検出情報 >

山形県衛生研究所の検査において、県内の手足口病患者3名、ヘルパンギーナ患者1名より、コクサッキーウイルスA6が分離・検出されています(2022年9月7日現在)。

手足口病

手足口病は、ウイルスに感染することによって口の中や手足に水疱性の発疹がでる感染症です。発熱はあってもあまり高くないことがほとんどです。



感染経路は、咳やくしゃみの中に含まれるウイルスによる飛沫感染、水疱や便に含まれるウイルスが手などを介して、口や目などの粘膜から入ることによる接触感染です。治った後も長い期間ウイルスが排出されるので、手洗いの徹底が重要です。手洗いは流水と石けんで十分に行い、タオルの共用は避けましょう。

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、ウイルスに感染することによって発熱(高熱)、咽頭痛、口腔内の水疱や発赤などがあらわれる感染症です。



口腔内の水疱や痛みのため、食事や水分が取りづらくなるため、脱水にならないように注意が必要です。感染経路は、咳やくしゃみの中に含まれるウイルスによる飛沫感染、水疱や便に含まれるウイルスが手などを介して、口や目などの粘膜から入ることによる接触感染です。治った後も長い期間排出されるので、手洗いの徹底が重要です。手洗いは流水と石けんで十分に行い、タオルの共用は避けましょう。